

## シンポジウムS1-5 高気圧酸素治療の危機管理について —全国アンケート調査結果—

灘吉進也 石川勝清 小森恵子

日本高気圧環境・潜水医学会 高気圧酸素技術部会

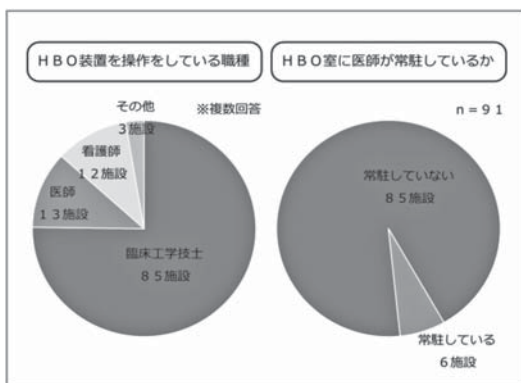
### 【目的】

HBOの危機管理について、現状の把握と今後について協議を行うことを目的に、技術部会としてアンケート調査を実施した。

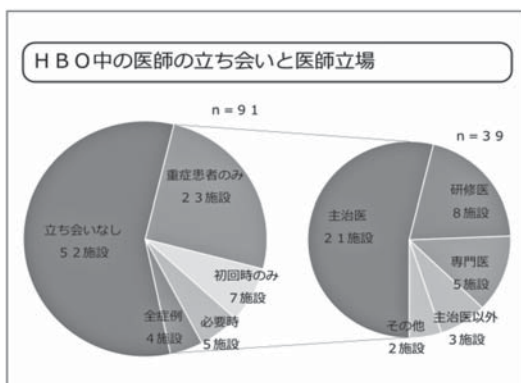
### 【方法】

実施期間は平成30年6月25日から8月10日、WEBアンケート (SurveyMonkey) にて実施した。対象は、高気圧酸素治療設置施設とし、約20項目について設問した。回答施設は91施設 (内訳: 医師10名、臨床工学技士74名、看護師6名、その他1名) であった。

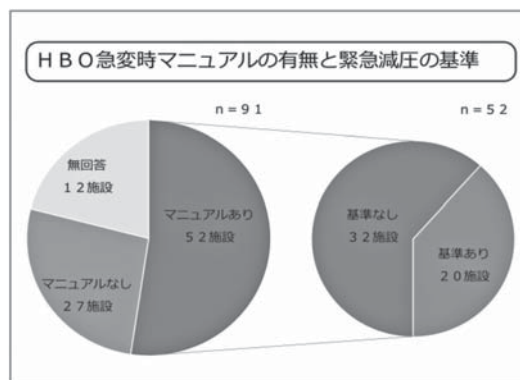
結果① 装置を操作する職種と医師の立ち会い



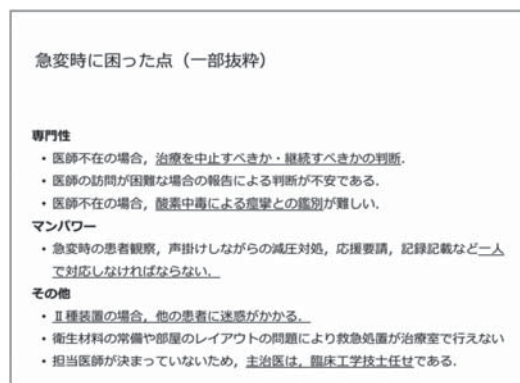
結果② 治療中の医師の立ち会いとその立場



結果③ 急変時マニュアルの有無と緊急減圧基準



結果④ HBO 急変時に困った点 (一部抜粋)



### 【考察】

医師は、臨床現場でHBOの経験を積む機会が乏しい現状が示唆された。危機管理上、医師不在では急変時の正確な判断が難しく、技師だけでは対応が不十分になる可能性が示唆された。臨床現場にてHBOの経験を積みやすくする体制の構築が望まれた。本学会主導により、医師・技師への卒前および卒後のHBOの研修体制の整備が必要と考えられた。コードブルーの活用は、急変時対応の円滑さが期待でき、急変発生を想定した訓練が必要と考えられた。急変時の判断は、技師によるものが殆どであり、1種装置と2種装置とで対応の違いがあった。本学会主導により、HBOの危機管理マニュアルの整備が必要と考えられた。

### 【結語】

学会主導により、「HBO研修体制の整備」「HBO危機管理マニュアルの整備」が必要である。